

第 1039 回広島キワニスクラブ例会（2015/8/27㊦）講演

講演内容

現在は高度情報社会であり、計算機や携帯端末の恩恵なくては生活できない時代である。特に、若者には携帯端末は不可欠なものとなっている。こうした情報化社会はマイクロソフトやアップル社などの多くの IT 企業の発展に依存している。

一方コンピュータグラフィックス（以下 CG）は映像やゲームのみでなく日常生活の多方面に満ち溢れている時代となった。こうした携帯型計算機の到来を提唱したのは CG の研究者である。CG 研究が萌芽したのは米国のユタ大学であり、その出身者の提唱や起業家が今の情報化時代の基礎になっている。

日本ではここ広島が CG 研究の発祥地であることは知られていない。本講演では CG 研究の歴史・現状・応用のみでなく、CG 研究者がいかに現在の IT 社会の進展に貢献してきたかも講述する。

講演者略歴；

氏名：西田 友是（にしたともゆき）

生年等：1949 年生れ 広島県出身

現職：広島修道大学経済学部教授 東京大学名誉教授

昭和 48（1973）年 広島大学工学研究科修了、同年マツダ入社

昭和 54（1979）年 福山大学電子電気工学科講師

昭和 63（1988）年～平成 1（1989）年 米国 Brigham Young（ブリガムヤング）大学客員研究員

平成 2（1990）年 福山大学教授（1994 年から東京大学理学部非常勤講師）

平成 10（1998）年 10 月 東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻教授

平成 11（1999）年 同大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻教授

平成 25（2013）年 4 月 広島修道大学経済学部経済情報学科教授 現在に至る

平成 25（2013）年 研究所（UEI リサーチ）を設立し研究所長就任

（研究所は平成 27（2015）年 8 月から KADOKAWA-DOWANGO 社に移管）

日本におけるコンピュータグラフィックス研究のパイオニアであり、3次元物体のリアルな表現法、照明シミュレーション（種々の光源、相互反射光の計算、天空光）、景観予測、自由曲面の表示法、CGアニメーション、インタラクティブレンダリング等の研究に従事（1970 年から 35 年以上）。

著書に「3次元コンピュータグラフィックス」（昭晃堂）、「ビジュアルコンピューティング・3次元CGによる画像生成」など数冊。

平成 13（2001）年～ 画像電子学会ビジュアルコンピューティング研究会委員長（5年間）

平成 18（2006）年～ 情報処理学会 GCAD 研究会主査

平成 21（2009）年～ 画像電子学会会長

米国 IEEE 学会の Transactions on Visualization and Computer Graphics の編集委員など 各種委員を務めた。

昭和 62 年（1987） 情報処理学会から、研究賞（現山下記念研究賞）授賞

平成 17（2005）年 米国 ACM SIGGRAPH から Steaven A. Coons Award を受賞（アジアで初めて）

平成 18（2006）年 NICOGRAPH から CG-Japan Award を受賞

平成 18（2006）年 3 月 画像電子学会において、CG 関連の優秀論文の著者に与えられる賞「西田賞」が創設された